

[成果情報名] 山形県における外来魚の生息状況（平成 29 年）

[要 約] 平成 22 年以降新たに生息が確認された場所があるため、外来魚の生息域が拡大している可能性が示唆された。

[部 署] 山形県内水面水産試験場・資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] 外来魚、生息情報

---

### [背景・ねらい]

本県において、ブラックバスは昭和 50 年代から見られるようになり、それ以降分布域が拡大している。外来魚による内水面漁業資源への被害拡大が危惧されており、内水面漁業協同組合による駆除や看板による啓発活動などが実施されている。平成 7 年にブラックバス等<sup>\*</sup>外来魚の移植が禁止（山形県内水面漁業調整規則）、さらに平成 29 年には県内の共同漁業権に係る漁場の区域でブラックバス等外来魚の再放流（リリース）が禁止された（山形県内水面漁場管理委員会指示）。

外来魚の生息状況の把握は、駆除や啓発活動を実施する上で重要な情報となる。本調査では、平成 29 年現在の本県における外来魚の生息状況を取りまとめた。

### [成果の内容・特徴]

- 1 内水面漁業協同組合へのアンケート調査、聞き取り調査および当試験場の調査で外来魚の生息情報を収集した（表 1、2）。
- 2 平成 29 年現在における生息情報を平成 22 年と比較すると、変化は以下のとおりであった。
  - ①バス類  
新たな生息情報があったのは最上川 4 か所、1 河川、6 湖沼であった。生息情報のあった 4 河川で未確認となった。
  - ②ブルーギル  
新たな生息情報があったのは最上川 1 か所、6 湖沼であった。生息情報のあった最上川 2 か所と 2 河川、1 湖沼で未確認となった。
  - ③チャンネルキャットフィッシュ  
生息情報のあった最上川 1 か所で未確認となった。
- 3 漁協の情報で未確認となった河川及び湖沼における外来魚の生息についての詳細は当场で採捕調査を実施していないので不明であるが、平成 22 年以降新たに生息が確認された場所があるため、外来魚の生息域が拡大している可能性がある。

### [成果の活用面・留意点]

- 1 今回の調査で生息情報がなかった河川や湖沼での生息や分布拡大の可能性があるので、注意して監視を続ける必要がある。

※「ブラックバス等」＝「オオクチバス、コクチバスその他のオオクチバス属の魚及びブルーギル」を指す。

[具体的なデータ]

表1 漁協へのアンケート、聞き取り調査による山形県の河川における外来魚の生息状況

漁協名	河川名	平成22年度			平成29年度	
		バス類	ブルーギル	チャネルキャットフッシュ	バス類	ブルーギル
両羽 県南	最上川	○	○			
	羽黒川	○			○	
西置賜	最上川	○	○	○	○	
	置賜野川	○	○			
	置賜白川	○	○			
最上川第一	最上川	○			○	
最上川第二	最上川	○			○	○
	寒河江川				○	
丹生川	最上川				○	
	丹生川	○				
小国川	最上川				○	
	小国川	○				
最北中部	最上川				○	
最上	鮭川	○			○	
	真室川	○			○	
	金山川	○			○	
最上川第八	最上川				○	
赤川	赤川	○			○	

表2 漁協へのアンケート、聞き取りおよび当場の調査による山形県の湖沼における外来魚の生息状況

湖沼名	平成22年度		平成29年度	
	バス類	ブルーギル	バス類	ブルーギル
水窪ダム	○		○	
こまき沼	○		○	
馬神沼	○		○	○
長沼	○		○	○
大沼	○		○	○
寺津沼	○		○	
えびつる沼			○	○
徳良湖	○		○	
最上公園			○	
泉田野池			○	
野々村ため池			○	
荒鍋沼	○	○	○	○
小出沼			○	○
千河原沼			○	○
大山下池	○		○	
大山上池	○		○	
大山中ノ池	○		○	
畑谷大沼	○	○	○	○
畑谷荒沼	○	○	○	○
白竜湖	○	○	○	

[その他]

研究課題名：カワウ・外来魚等対策事業

予算区分：県単

研究期間：平成29年度（平成29年度）

研究担当者：河内正行

発表論文等：なし